

平成 26 年度第 2 回博物館懇談会議事録

日時：平成 27 年 3 月 11 日（水）17 時～18 時 30 分

場所：野田市市民会館 雪月桃の間

出席者：懇談会委員・生田武士、宇佐見節子、沼野秀樹、茂田井宏、米川幸克。郷土博物館館長・関根一男、同学芸員柏女弘道、田尻美和子、岩田明日香、大貫洋介（書記）。

1. 市民コレクション展「劉勝彦さんの絵はがきコレクター人生」について

●市民コレクション展「劉勝彦さんの絵はがきコレクター人生」展示見学・説明

岩田学芸員より博物館展示室で展示解説を行った（議事録省略）。その後市民会館雪月桃の間に会場を移し、岩田学芸員より補足説明と、意見交換を行った。

・入館者数は 2 月 27 日時点で 4,881 人。1 日平均では約 104 人。冬場なのでやや少なめではあるが、3 月に入り暖かくなれば入館者が増えるのではないかと思う。

・絵はがきの展示枚数は約 880 枚。出展資料の総数は約 1,390 点で、資料の多さという点も一つの見どころとなっている。

・関連事業として寺子屋講座、ギャラリートーク、絵はがき相談会を実施した。寺子屋では、様々な物を集めているコレクター同士の交流も見られ、非常に盛り上がっていた。ギャラリートークも参加人数が多い。来館者からは、劉さん本人による解説が好評である。劉さんの友人や、遠方から訪れる人も多い。

●意見交換

委員：コレクターによるギャラリートークはマニアックになってしまうイメージがある。マニア以外にも楽しめるとよいと思う。

岩田：展示自体を絵はがきになじみのない方にも楽しめるように意識して計画した。ギャラリートークもなじみのない方にも楽しんでいただいている。

岩田：絵はがき相談会は定員よりも参加者数が少なかった。ただ、相談者からは好評で、開催した意義があったと思う。

岩田：また、展示を紹介した新聞記事が 6 紙で掲載された。アンケートを分析すると、新聞を見てきたという割合が他の展示より高かった。

委員：やはり絵はがきは注目度が高い。文化財としての価値も見直されるべきだと思う。そういう点では、学芸員の視点から絵はがきに対するコメントがあってもよかったのでは。

岩田：市民コレクションなので、出展者の意向を重視しながら、所々でメディアとしての絵はがきの役割や歴史について紹介した。

柏女：コレクション展は、単にコレクションを展示するだけでなく、コレクター自身を紹介することにも重きをおいている。

委員：コレクターの取り組みやその立場を意義づけるという点でも、来館者に絵はがきの文化財としての価値を理解してもらおうという点においても、学芸員としての視点は必要だ

と思う。

岩田：絵はがきの歴史資料としての価値を再認識したという来館者の意見も多かった。そうした点も踏まえ、今後に生かしていければと思う。

委員：絵はがきに対する関心の高さに驚いた。

岩田：今回はアンケートの回収に力をいれた。博物館ボランティアの協力もあり、現時点では入館者の約6パーセントの回収率を達成することができた。

岩田：これまでのアンケートを見ると、男女比は他のコレクション展と同じように男性が多い。年齢層は60～70歳代が多く、学生の割合が極めて少ない。また、初めて博物館を訪れた人が7割を占める。展示を知った情報媒体については、新聞を読んだ方と、劉さんから案内を受けた方が多い。劉さんが知人やコレクター仲間に積極的に宣伝してくれたことが大きい。

岩田：今回の展示で特筆すべき点は、劉さんがお住まいの地区の自治会が、自治会報等で展示について積極的にとりあげてくれ、展示をきっかけに、劉さんと地域の人々との繋がりが広がったことである。また、アンケートの内容評価の項目を分析すると、展示についての満足度は非常に高く、来館者に楽しんでもらえたことは喜ばしい。

岩田：印象に残った展示物としては、関東大震災の絵はがきを挙げる人が多い。東京駅や富士山等は、劉さんが話題性のあるものとして選んだ。そうした狙いがあたり、これらを挙げる人も多かった。

委員：展示については、パターンを変えればもっと人が来るかもしれない。私も講演会を主催する際、ワンパターンに陥らないように講師を変えるなど、様々な試みをしている。今回、市外の来館者が多いとのことだが、個人の集客の力、口コミの力というのは大きい。新たな人脈によって、集客も変わってくるということではないだろうか。あくまでも集客の話だが。

田尻：市民コレクションで今まで出展をお願いしてきたコレクターの方々は、指定管理者制度導入以前から繋がりがあつた人だつた。劉さんは指定管理者制度導入以後に知り合つたので、今回は新たな人脈を活かした展示ともいえる。

委員：コレクターのエネルギーに驚かされた。展示物では、カラーの風俗写真が印象に残つた。その時代の様子がよくわかる、楽しい展示だと思う。

委員：劉さんのコレクター人生はよく分かつたが、そこからわかる点や比較等は、学芸員や博物館としてもう一步踏み込んでよかつたと思う。絵はがきの枚数が多いので、特徴的な何点かにしぼつてもいい。アンケート回収が増えたことは非常によかつた。アンケートから得られることは大きい。展示室で来館者から生の声を聞いてみるというのもいいと思う。来館者の傾向を読むことができるだろう。

委員：自分の住んでいる地域でも、もっと博物館の宣伝をしたいと思う。絵はがきの多さと質に驚いた。自分で集めた絵はがきは捨ててしまうことが多かつたのだが、今回展示を見て素晴らしいと思った。

委員：劉さんの住んでいる地区は古くから野田に住む人々も多い。そうした地域で盛り上がったのは確かな成果だと思う。

委員：私も印象に残ったのは震災関係の絵はがきである。教科書では昔の写真は白黒なのが普通で、子供にリアルさが伝わらない。子どもにも見せたいと思ったが、絵はがきは子供にとって非常に馴染みが薄いものだと思う。修学旅行や遠足で、お土産として絵はがきを買っている子どもを見たことがない。絵はがきに子どもが飛びつくかという、正直難しいと思う。

田尻：子供にとって身近なものから引きつけられれば、今は何でもスマートフォンで調べることができるが、それが無い時代、人々はどのようにして情報を得ていたということを考えるきっかけになる。

委員：テーマをことさら強調するのが絵はがき。スマートフォンなどで見るものとは説得力が比べ物にならないと思う。

田尻：現代でも、自分が撮った写真を SNS に投稿して他人に見てもらったりする。こうした行為は、現代のメディアと絵はがきの共通する部分である。

委員：絵はがきの歴史的な意義、価値、役割を明確にすることは必要だと思う

2. 平成 27 年度事業計画について

柏女学芸員より、以下の説明を行った。

- ・平成 27 年 4 月からは「野田に生きた人々 その生活と文化 2015」展を開催する。今回も考古遺物と新収蔵品が中心。以前指摘をいただいた関宿地区の土器について、前回は写真のみでの紹介であったが、今回は現物を借用することができた。また、発掘に使用する道具の紹介も行う予定である。新収蔵品の目玉は、東日本大震災で被災した須賀神社の瓦、醤油関係の看板、絵図、酒屋の角樽等である。

- ・生活文化展の次は市民アート展を実施する。市民アート展は 2012 年に行った陶芸展以来となる。募集する作品のテーマはモノクロ、白黒の作品。作品のジャンルは問わない。

- ・秋の特別展では、勝文斎の押絵行灯を約 20 年ぶりに全点公開する。前回の展示での図録では作品の写真がモノクロであったが、今回はカラーで掲載する予定である。

- ・特別展の後は市民の文化活動報告展を開催する。なつかしの道具探究会が昭和の暮らしと生活道具の展示を行う。

●意見交換

委員：「白黒アート」というのが分かりにくい。タイトルはもっとわかりやすくすべき。

田尻：タイトルをどうするかが難しい。まだ仮称の段階であり、わかりやすいタイトルを考案中である。

委員：「野田に生きた人々～」の名称を変えてもいいのでは。前にそういう意見が出た気がする。

委員：本当はタイトルは内容に応じて付けられるとよいのだが。

委員：同じタイトルはどうしてもマンネリ感が出てしまう。タイトルからマンネリを打破するのもいいと思う。

柏女：博物館・市民会館の新しいパンフレットを作成し、平成27年1月から配布を開始した。今までのものは博物館の案内のみであったが、指定管理になってから、博物館・市民会館を一体管理しており、両方が掲載されたパンフレットを作りたいということになった。今回は問い合わせの多い市民会館の料金表等を盛り込んだ。

委員：印刷費はどのくらいかかったのか。

田尻：1万部印刷し、20万円程度であった。

委員：館内図がグラフィックになってわかりやすい。トイレの場所もきちんと表示されている。

柏女：車椅子で利用可能なトイレも案内している。

田尻：団体で来館する場合、会を引率する立場の方から、自分の参考にもなって、仲間にも配布できる資料を要望する声が多かった。新しいパンフレットは、そうした方へのニーズに応えられるように工夫した。

委員：西門側が分かりにくい。玄関から内玄関の動線も。これは改訂版がでるのであれば検討すべき点かもしれない。

委員：車椅子と関連して、施設のバリアフリーにもっと予算がとれればいいのだが。

田尻：バリアフリーについてはこれまでに何度も提案しているが、予算や物理的制約が多く、なかなか実現できていない。

委員：たとえば、博物館入口の階段などにスロープはつけられないか。

田尻：スロープは以前検討したことがあるが、面積が足りないようだ。前庭の一部を潰さないと設置できないことが分かった。昇降機の方が現実的であろう。

関根：博物館施設そのものの老朽化や耐震性も考えなければならない。

委員：まずは目先のことから取り組み、実績を積み上げていくことも大切だと思う。

関根：本日も貴重なご意見をありがとうございました。